研究分野	授業科目名	科目責任者
形態系分野	画像診断・応用診療学特論Ⅰ・Ⅲ	加藤 勝也

開講年次	共通／専攻／選択	単位数	
1,2,3,4	特論Ⅰ：必須専攻, 特論Ⅲ：選択	特論Ⅰ：4（2/年）, 特論Ⅲ：1/年	

目的

放射線医学の臨床応用についての十分な知識と専門技能の習得を目的として，実際の症例を用いて，適切な画像診断装置の選択，画像所見の拾い上げ，鑑別診断の進め方について理解する。

授業到達目標

（1）ビューアを用いて円滑かつ適切に画像が呈示できる。
（2）症例の画像所見を正しく拾い上げ，適切に鑑別診断を呈示することができる。
（3）症例の画像所見，臨床所見を合わせ総合的に正しく鑑別診断を進め，最終診断に至る過程を呈示することができる。

授業計画

回数	月日	曜日	時間	担当者	区分 1	区分 2	授業内容
1	毎週	木	16:00-17:00	加藤 勝也 藤原 寛康	講義	[症例検討会]	実際の症例を用いて，適切な画像診断と鑑別診断を行い，その過程を呈示する症例検討方式の症例発表を行う。 [場所:総合医療センター２階読影室]

評価方法

【特論Ⅰ】
（1）１年間※で 30 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
【特論Ⅲ】
（1）１年間※で 15 時間出席し，科目責任者から履修手帳に出席印をもらい，提出する。
（2）１年間※で，論文紹介または症例発表を２回行い，その要約２編を提出する。
ただし，特論Ⅰ・Ⅱで紹介したものとは異なる論文（症例）であること。
特論ⅠとⅢの同年度での重複受講は不可とする。
※１～３年生は２月末まで，４年生は 11 月末までの講義を当該年度の単位認定の対象とする。

課題（レポート等）に対するフィードバック

発表症例の要約について，添削して返却する。

教科書

ISBN-9781496360694, Radiology Review Manual（8th ed.）, W.Dahnert, Lippincott WIlliams and WIlkins, 2017

参考書

ISBN-9784815701185, 胸部の CT（第４版）, 村田　喜代史, 上甲　剛, 村山　貞之, 酒井文和, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2018
ISBN-9784780904369, 肝胆膵の画像診断 - CT・MRI を中心に　改訂第２版, 山下 康行、伊東克能, 藤永康成　編・著, 学研メディカル秀潤社, 2022

準備学習（予習・復習等）

事前に各症例について，臨床経過，画像を検討しておき，スムーズに発表できるよう理解しておくこと。

修了認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

発表症例の画像所見を理解するとともに，臨床像，鑑別診断，治療選択など時間経過に沿って各疾患の病態を総合的に理解する。

注意事項・メッセージ

学ぶ範囲が広く大変に感じることもあると思いますが，AI，撮像法など最新のテクノロジーを使いこなして医療の進歩に貢献するやりがいもあります。一緒に学んでいきましょう。